

Q 1 : 学部・研究科という名称はどうなりますか？

A 1 : 平成 28(2016)年 4 月以降は、使用しません。平成 28 年度以降に入学した学生は学院・系に所属します。それ以前に入学した学生は研究科・専攻、あるいは学部・学科に所属するため、その学生が卒業・修了するまで研究科・専攻、学部・学科を使用します。

Q 2 : 入試は変わるのですか？

A 2 - 1 : 平成 28(2016)年 4 月に開始する教育改革による学部への入学試験の変更はありません。

- ・ 類単位で募集する類別入試を実施し、類に入学します。

- ・ 入試科目・内容・類入試・募集人員・入試日程は基本的に変更はありません。

- ・ 2 年目から新しい学院・系に所属します。

A 2 - 2 : 平成 28(2016)年 4 月に開始する教育改革による大学院への入学試験の変更はありません。

- ・ 平成 27(2015)年夏までに実施される大学院入試は、現在の研究科・専攻単位で実施し、入試科目・内容・募集人員・入試日程は基本的に変更ありません。

- ・ 平成 27(2015)年 10 月に入学する方は、現在の研究科・専攻に入学します。

平成 28(2016)年 4 月の入学方は、新しい学院・系に入学します。

- ・ 修士課程については、平成 28(2016)年 4 月及び平成 27(2015)年 10 月入学大学院募集要項で、新旧の研究科・専攻と学院・系の関係を明示します。

- ・ 平成 28 年度以降実施の大学院入学試験については、新しい学院・系による募集となりますが、詳細は現在検討中です。

Q 3 : 学修一貫ということは、学士の学位がでないのでしょうか。同じように、修博一貫では修士の学位がでないのでしょうか。

A 3 : 今までと同様に、卒業・修了要件を満たせば、課程ごとに学士・修士・博士の学位が授与されます。本学が行う「一貫教育」とは、学士と修士、修士と博士の教育カリキュラムを切れ目なく履修できるような仕組みです。

Q 4 : 学修一貫ということは、学士で卒業できないのでしょうか。学修一貫に入ると必ず修士に進学しなければならないのでしょうか。

A 4 : 今までと同様に、学士課程の卒業要件を満たせば、全員卒業でき、就職したり、他大学に進学したりできます。学修一貫であっても、必ず修士に進学しなければならないということはありません。修博一貫も同様です。本学では、現状 8 割から 9 割の学士課程学生が、修士課程に進学しています。修士進学希

望の学生を今まで以上にスムーズに修士課程教育に導くため、「一貫教育」を実施します。本学が行う「一貫教育」とは、学士と修士、修士と博士の教育カリキュラムを切れ目なく履修できるような仕組みです。

Q 5 : 学修一貫ということは、修士から入学できないのでしょうか。同じように修博一貫ということは、博士から入学できないのでしょうか。

A 5 : 修士課程、及び博士後期課程の入学試験は実施し、修士課程から、また博士課程から入学する機会を設けます。学士課程や修士課程を他大学で修了し、その次の課程を本学で学びたいと希望される方が、今までと同じように受験できます。本学の新しいカリキュラムで学びたいという方を、お待ちしております。

Q 6 : 在学期間を短縮して早期卒業できるということですが、具体的には何年で卒業できますか？

A 6 : 現在でも成績優秀者で優れた業績をあげることができれば、制度上最短で3年で学士号を、1年で修士号をとることが可能です。

教育改革では、学士課程と修士課程における教育カリキュラムの接続を密にした学修一貫の取り組みを行います。それによって、成績優秀で意欲のある学生は、学部学生のうちから修士課程の学習をしやすくなりますから、早期卒業・修了の可能性が広がります。なお、現在も実施している飛び入学の制度も維持します。

Q 7 : サマースクールには、必ず参加しなければならないのでしょうか。サマースクールに参加すると夏休みはなくなってしまうのでしょうか。

A 7 : サマースクールの開催期間と夏休みの期間が重なって夏休みがなくなってしまうと言う、ということはありません。希望者（選抜がある可能性もあります）が参加しますので、参加しない場合は通常の夏休み期間を確保できます。

Q 8 : 英語による講義が用意されるということだが、学部学生も必修なのでしょうか。また、英語による講義はどのぐらいの割合になるのでしょうか。

A 8 : 本学はグローバルな人材育成を目標に掲げており積極的な履修を期待しますが、学士課程で実施する英語による講義は、多いわけではありません。割合は未定です。また、英語による講義のほとんどは選択科目ですが、所属する専門分野によっては、一部の専門科目を必修とする可能性があります。なお、大学院における専門科目は、英語で実施される予定です。

Q 9 : 「全学生が留学を経験」とあるが、全員一度は海外に実際に出ないと卒業できないのでしょうか。

A 9 : 修士修了時まで全学生に、短期・長期関わらず、留学を経験してほしいと考えています。留学の経験が学生の視野を広げ、チャレンジする力を身につけることができるのは、在学生の実績が証明しています。例えば、海外の大学で授業に参加し単位を取るといったような3ヶ月程度の留学、2週間程度のサマープログラム、あるいは、国際学会に指導教員や研究室のメンバーと一緒に参加するなど、留学と言っても多様な方法を検討しています。語学授業の充実や、学内外の資金を基にした奨学金などのサポートも検討中です。また、様々な事情により海外留学が困難な場合を想定して、例外的措置を設けるべきか、検討しております。

<平成28年度より前に入学する場合>

Q 1 : 平成27年度に入学する場合、途中から学院に所属することになりますか。

A 2 : 学院は、学士課程、修士課程、博士後期課程すべてにおいて、平成28年度以降に入学した学生に適用します。よって、それ以前に入学する方は、現在の学部・研究科に入学し、入学した学部・研究科が設定する卒業・修了要件が適用され、入学した学部・研究科の卒業・修了となります。

Q 2 : 平成28年度より前に入学すると、教育改革による新カリキュラムは履修できないのですか。

Q 2 : 教育改革によって提供される新しいカリキュラムについて、運用上は、できる限り改革開始前に入学された方も活用いただけるような仕組みとするよう検討中です。

Q 3 : クォーター制は適用されるのですか。

A 3 : クォーター制は平成28年4月に一斉に開始しますので、在生も含めた全学生に適用予定です。